

ほどほどがよい

1. ギフチョウの産卵(No.1 参照)

ギフチョウは4月下旬から5月上旬にかけてカンアオイのなかまの葉裏に産卵します。打吹山に生育しているミヤコアオイの新葉を順次めくっていけば出合うことになりますが、明るい場所よりは少し陰になる場所で、数枚の葉がある株、あるいは株が集まっている場所がよいでしょう。



ミヤコアオイ



卵塊が2つ



昼間の2齢幼虫

葉裏に10個ばかりが、かたまって産み付けられているものに出合います。左の写真のように卵塊が2つもあるものは親の不注意です。このように断定した理由は次の通りです。

産卵数は幼虫の餌として必要なカンアオイの葉の量から決められていると思われます。若齢の幼虫は夜間に集団で葉を端の方からまとめて食べていきます。全て食べ終わると次の葉に集団で移動します。4・5(終)齢になり、葉が食べ尽くされると数m以上離れた場所まで個々に移動します。若齢の時には遠くまでの移動が難しく、数枚の葉でまかなえる産卵数、それが10個程度と思われます。カンアオイは1株が枝分かれますが、1枝には1年に葉が1枚しか付かず、葉の寿命は2年です。全部食べられても、翌年には1枝に1枚の葉が出ます。

雌は1株の葉の集団には1卵塊だけ産卵します。カンアオイの生育状態は認識できるようです。2卵塊あることは、別の雌が産卵にきたことを示します。良い条件は共通であり、他個体の産卵は認識しないということがわかります。

2. ウコギ科の香り

新芽が山菜として利用されている種の多いウコギ科です。倉吉ではウド、タラノキ、コシアブラが食べられていますが、ウコギ、タカノツメ、ハリギリも食す地方があります。打吹山に生育するウコギ科はウド、タラノキ、コシアブラ、ヤマウコギ、タカノツメ、ハリギリの他にヤツデ、カクレミノ、キヅタがあります。



ヤマウコギ



タカノツメ



コシアブラ



ハリギリ

人の嗅覚には個人差があり、好き嫌いもあります。以下は、個人の感覚で記述しますが、皆さんも好みの順位を調べてみてください。良い匂いと感じる種はウド、タラノキ、ヤマウコギ、コシアブラです。タラノキはもっとも匂いが弱く、ものたりません。ウド、コシアブラは強いのですが、加熱すると程よい香りになります。ウコギは一番爽やかな感じですが。

タカノツメ、ハリギリは強烈すぎて嫌な匂いと感じます。ただ、香りは成長とともに強くなっていきますので、同じような発育時期で比較する必要があります。植物は香りだけでなくアクも含んでいますから生食するときは少量にしましょう。ヤツデ、カクレミノ、キヅタはサポニンなど有毒物質を含みますので食用にはしません。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2025)